

## 米国 製造業部門の速いペースでの回復持続(10年5月 I S M製造業景気指数)

発表日：2010年6月1日 (火)

～引き続き世界的に製造業部門は速いペースで回復～

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 桂畑 誠治

03-5221-5001

### I S M製造業景気指数 は59.7と市場予想を上 回り高水準を維持

5月のI S M製造業景気指数は59.7と前月比▲0.7%低下したが、市場予想の59.0を上回った。拡大縮小の分岐点である50を10ヵ月連続で上回ったうえ、高い水準を維持しており、製造業部門は速いペースで回復している。雇用（前月比+0.3%ポイント）が押し上げ寄与となった一方で、新規受注が変わらず、在庫（同▲0.8%ポイント）、入荷遅延（同▲0.1%ポイント）、生産（同▲0.1%ポイント）が押し下げ寄与となり、総合指数は前月比▲0.7%ポイント低下したが、小幅な低下にとどまった。さらに、拡大した業種数が16業種（前月17業種）と、広がりを持った製造業の回復を示している。各国の景気刺激策による需要拡大、在庫調整の進展によって、製造業部門の回復傾向は持続している。

予想を上回った同統計発表直後の市場反応をみると、株価、10年債利回りは上昇した。為替市場では、ドルは対円で強含んだ一方、対ユーロでは直前までドル高が続いていたことから下落した。

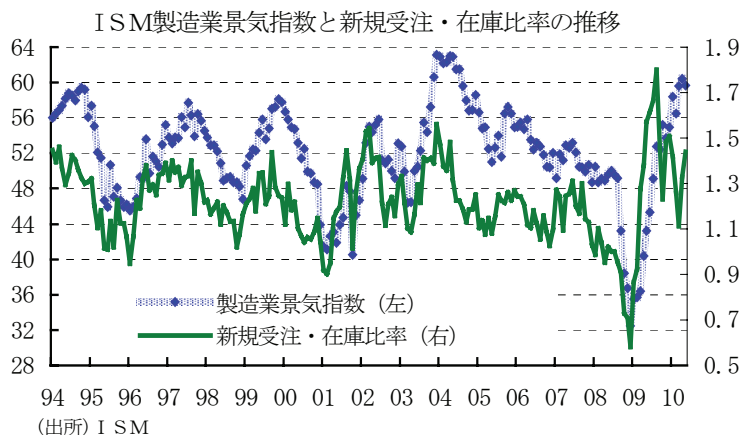
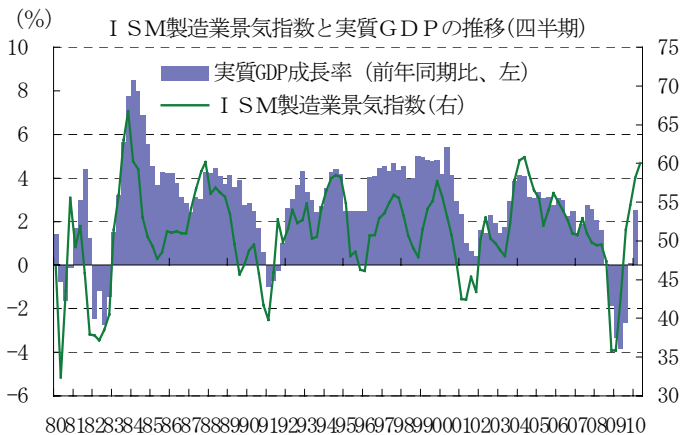
I S M (the Institute for Supply Management) の推移

	総合	新規受注	生産	雇用	在庫	入荷遅延	受注残	仕入価格	輸出受注	輸入
09/08	52.8	63.0	62.9	47.0	35.0	56.0	52.5	65.0	55.5	49.5
09/09	52.4	59.9	57.5	46.5	41.2	56.8	53.5	63.5	55.0	52.0
09/10	55.2	58.3	62.2	51.8	47.3	56.3	53.5	65.0	55.5	51.0
09/11	53.7	61.5	60.2	49.6	41.4	55.7	52.0	55.0	56.0	51.5
09/12	54.9	64.8	59.7	50.2	43.0	56.8	50.0	61.5	54.5	55.0
10/01	58.4	65.9	66.2	53.3	46.5	60.1	56.0	70.0	58.5	56.5
10/02	56.5	59.5	58.4	56.1	47.3	61.1	61.0	67.0	56.5	56.0
10/03	59.6	61.5	61.1	55.1	55.3	64.9	58.0	75.0	61.5	57.0
10/04	60.4	65.7	66.9	58.5	49.4	61.3	57.5	78.0	61.0	58.0
10/05	59.7	65.7	66.6	59.8	45.6	61.0	59.5	77.5	62.0	56.5

### I S M製造業景気指数は 緩やかに低下する可能性

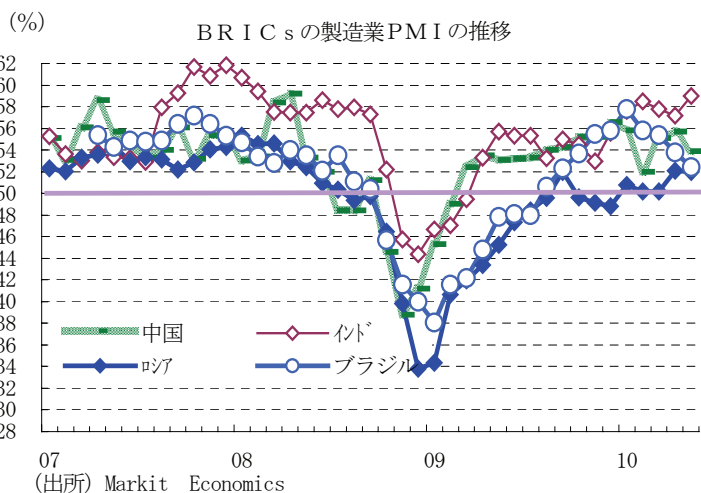
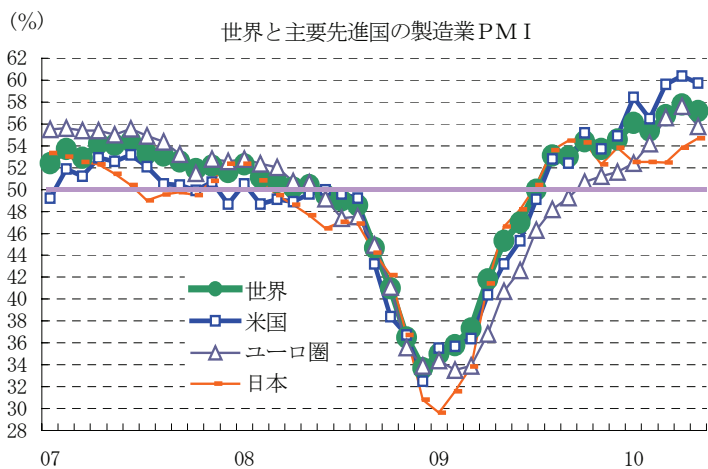
今後に関しては、景気対策による最終需要の持ち直しや、ハイテク需要の拡大傾向、在庫復元の動き等による生産活動の活発化を背景に、2010年のI S M製造業景気指数は高い水準で推移すると見込まれる。ただし、トレンドの変化に先行する新規受注・在庫比率が09年8月をピークに10年3月にかけて低下したことから、I S M製造業景気指数は年後半緩やかに低下すると予想される。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。



**世界製造業景気指数は  
高水準を維持しており  
世界的に製造業部門が  
景気回復を牽引**

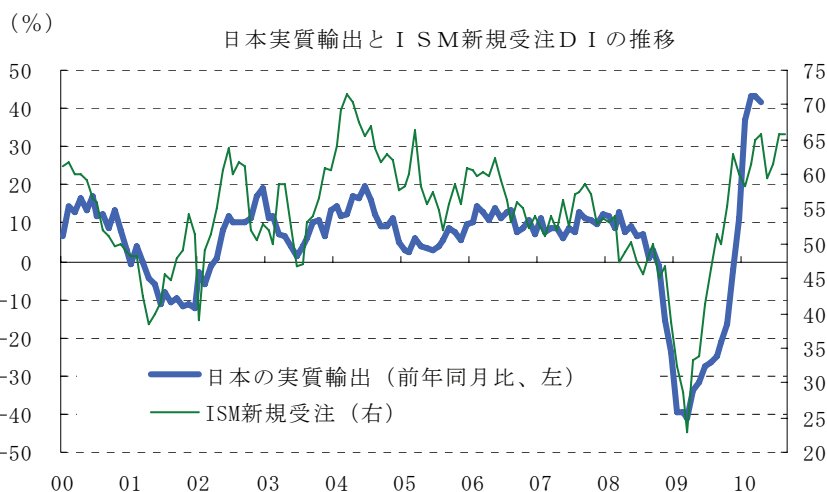
輸出受注DIが5月に62.0と前月比+1.0%ポイント上昇し、拡大縮小の分岐点である50を大幅に上回っていることから、新興国、日本、ユーロ圏など世界経済の拡大持続を示唆している。実際、5月の各国の製造業景気指数をみると、ユーロ圏が8ヵ月連続で50を上回っている。日本でも安定的に拡大している。新興国では、インド、中国などが高い水準を維持した。これら各国の数値を合成した世界製造業景気指数は、5月に57.2（前月57.8）と高い水準を維持しており、製造業部門は世界的に速いペースで拡大している。



**各国の米国向け輸出の  
拡大ペースは、今後数  
ヶ月に亘り高い伸びを  
維持**

全体の動きに遅れて動く傾向がある輸入DIが前月比1.5%ポイント低下したが56.5と高い水準を維持していること、日本の輸出・生産に先行する傾向がある新規受注DIが前月比変わらずの65.7と高い水準を維持していることから、日本を含む先進各国や、BRICsなど新興国の米国向け輸出の拡大ペースは、今後数ヶ月に亘り高い伸びを維持すると予想される。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

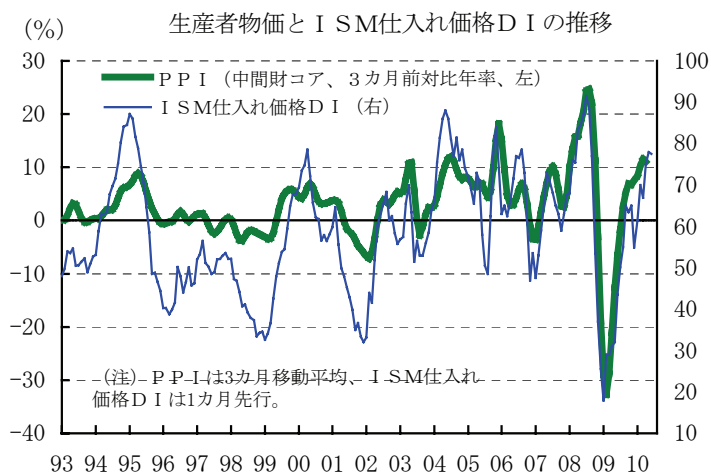
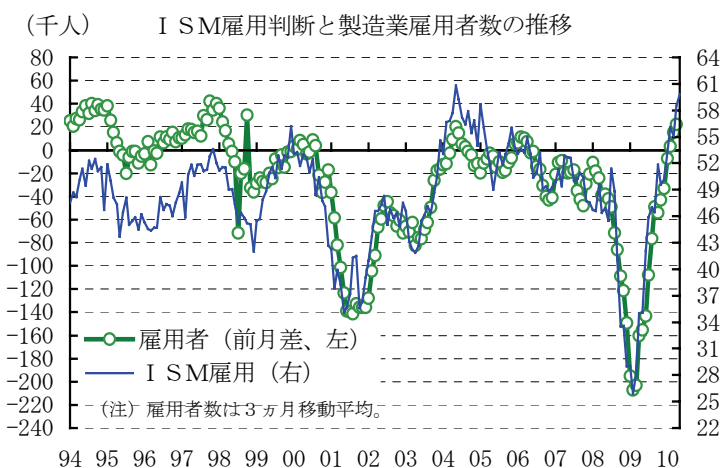


**雇用DIは59.8と5月の製造業雇用の増幅拡大を示唆**

雇用DIが59.8と前月比1.3%ポイント上昇し水準も高いため、5月の製造業雇用者数は増加幅を拡大すると予想される。ただし、価格競争の激化の中でコスト削減圧力は強く、今後製造業部門での雇用の増加ペースは鈍化すると見込まれる。

**仕入価格DIは77.5と川中でのインフレ圧力の強まりを示す**

仕入価格DIは、77.5と前月から0.5%ポイント低下した。2008年ほどのインフレ圧力はないものの、川中でのインフレ圧力が徐々に強まっており、今後企業収益を圧迫する要因となろう。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。